23　　かぐや姫のめ　　　　　　　　　　　助動詞⑧　じ・まじ

かぐや姫のいはく、「声高になのたまひそ。屋の上にをる人どもの聞くに、いとまさなし。いますかりＡつる心ざしどもを、思ひも知らで、まかりなＢむずることの口惜しうはべりけり。長き契りのア（なし）ければ、ほどなくまかりぬべきなめりと思ひ、Ⅰ悲しくはべるなり。親たちのかへりみを、いささかだに仕うまつらでまからむ道もやすくもあるまじきに、日ごろも、いでゐて、今年ばかりの暇を申しつれど、さらにゆるされＣぬによりてなむ、かく思ひ嘆きイ（はべり）。御心をのみ惑はしてⅡ去りなむことの悲しく堪へがたくはべるＤなり。かの都の人は、いとけうらに、老いをせずなむ。思ふこともなくはべるなり。さる所へウ（まかる）むずるも、いみじくはべらず。老いおとろへエ（たまふ）るさまを見たてまつらＥざらむこそオ（恋し）め」といへば、翁、「胸いたきこと、なのたまひそ。うるはしき姿したる使ひにも、障らじ」と、ねたみをり。

【本文チェック】

①（　）ア～オの中の用言を、正しく活用させて書きなさい。

　ア（　　　　　　）　　イ（　　　　　　）　　ウ（　　　　　　）

　エ（　　　　　　）　　オ（　　　　　　）

②□Ａ～Ｅの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を書きなさい。

　Ａ（　　　　　・　　　　　形）　　Ｂ（　　　　　・　　　　　形）

　Ｃ（　　　　　・　　　　　形）　　Ｄ（　　　　　・　　　　　形）

　Ｅ（　　　　　・　　　　　形）

③傍線部Ⅰ・Ⅱを現代語訳し、書きなさい。

　Ⅰ（　　　　　　　　　　　　　　　）

　Ⅱ（　　　　　　　　　　　　　　　）

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　暇〔５〕（　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　まさなし〔１〕　　①思いがけない

　　　　　　　　　　　②（　　　　　　　　　　）

２　いますかり〔２〕　①（　　　　　　　　　　）

３　まかる〔２〕　　　①（　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　　②参ります

４　さらに～ず〔５〕　①（　　　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　にこそ侍らねど、志ばかりは、まさる人侍らじと思ふ。（堤中納言物語）

　ア　意向　　イ　謝礼

　ウ　愛情　　エ　優しさ

　（　　　）

２　昔の契りありけるによりてなむ、この世界にはまうでたりける。

（竹取物語）

　ア　夫婦の縁　　イ　宿縁

　ウ　愛情　　　　エ　思い出

　（　　　）

３　そのほどのをだにつかうまつらむ。（蜻蛉日記）

　ア　し申し上げる　　イ　お与えになる

　ウ　しなさる　　　　エ　ございます

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| まじ | | じ | 基本形 |
|  | （　　） | ○ | 未然形 |
|  |  | ○ | 連用形 |
| ○ |  |  | 終止形 |
|  |  |  | 連体形 |
| ○ |  |  | 已然形 |
| ○ | ○ | ○ | 命令形 |
|  | |  | 意味 |

問５　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　冬枯れのこそ、秋にはをさをさ劣るまじけれ。（徒然草）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　この女見では、世にあるまじき心地のしければ、（竹取物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　き心つかふ人も、よもあらじ。（竹取物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

４　あはれ、わが道ならましかば、かくに見はべらじものを。（徒然草）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【探究】

問６　かぐや姫は、「前世からの宿縁によって地上に来たが、そこまで長くいるべき宿縁ではないため、もと居た月の都へ戻らなくてはならない」と言っている。このような「すべては前世からの決まり事である」という考え方に対して、あなたはどう思うか。

ア　馬鹿馬鹿しい考えだ。

イ　そういうこともあるかもしれない。

ウ　そのように信じたいと思う。

（理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝なかり　イ＝はべる　ウ＝まから　エ＝たまへ　オ＝恋しから

②　Ａ＝完了・連体　Ｂ＝婉曲（仮定）・連体　Ｃ＝打消・連体

　　Ｄ＝断定・終止　Ｅ＝打消・未然

③　Ⅰ＝悲しくございます　Ⅱ＝去ってしまうようなこと

問１　１＝いとま

問２　１＝みっともない　２＝おありになる・いらっしゃる

　　　３＝退出する　　　４＝まったく～ない

問３　１＝ウ　２＝イ　３＝ア

問４　（じ）　　○ ｜ ○ ｜ じ ｜ じ ｜ じ ｜ ○　意味＝打消推量・打消意志

　　　（まじ）　まじく　まじから｜ まじく　まじかり｜ まじ○　｜ まじき　まじかる｜ まじけれ○　　　　｜

　　　　意味＝打消推量・打消意志・不可能・打消当然・禁止・打消適当

問５　１＝打消推量・已然形　２＝不可能・連体形

　　　３＝打消推量・終止形　４＝打消意志・連体形

問６　（例）ア　すべてが決まっているなら、自分の力で物事を変えられないことになり、生きることの意味を見つけにくくなるから。

　　観点　古典の世界では「前世からの因縁」という考え方が強いことに注意し、現代を生きる者として考えを巡らせてみよう。

【現代語訳】

問３　１　人の数にも入りませんが、愛情だけは、（私に）まさる人はおりますまいと思う。

　　　２　前世の宿縁があったことによって、この世界に参上していたのだ。

　　　３　そのときの雑用の役だけでもし申し上げよう。

問５　１　冬枯れのありさまこそ、秋には少しも劣らないだろう。

　　　２　この女と結婚しないでは、生きていることができそうにない気持ちがしたので、

　　　３　勇猛心をふるう人も、まさかないだろう。

　　　４　ああ、もしこれが自分の（専門とする）道であったなら、このようによそごとに見てはいますまいものを。